

「フードバレーと勝ち」

～ 食と農林漁業を柱とした
地域成長戦略 ～

(商工観光部、農政部、産業連携室)

合計 300,115千円

農業を成長産業にする

<と勝ち農家6千戸で食の安全・安心に取り組む>

- 十勝型生産技術基盤の形成 2,691千円
- ・十勝型GAPの普及促進
 - ・食の安全・安心の取り組み発信
 - ・ニーズを踏まえた作物の検討

<安全でおいしい農畜産物の生産を推進>

- 有機資源循環システムの構築 5,670千円
- ・良質堆肥製造・施用効果試験の実施
 - ・土づくりと堆肥活用研修の実施

- 環境保全型農業の拡充 15,102千円
- ・化学肥料・農薬の5割低減や有機農業に取り組む農家への支援

- 飼料自給率向上対策事業 10,000千円
- ・コントラクターの育成・支援

<新品種・新技術を活かす>

- 技術活用促進事業 346千円
- ・新品種、新技術等に関するフォーラム等の開催
 - ・試験研究段階からの生産者、加工業者等への情報提供

- IT農業の推進
- ・農業分野へのIT導入の普及促進

<畑を科学し、土を元気にする>

- 土壌分析・飼料分析の促進 7,835千円
- ・土壌分析に基づく施肥管理による化学肥料低減の促進
 - ・自給粗飼料の調査分析を行い生産力向上の取り組みを促進

食の価値を創出する

<十勝の企業をつなぐ>

- 企業間マッチング・フォローアップ事業 750千円
- ・十勝管内の企業の連携を促進する、管内企業のマッチング
 - ・マッチング後のフォローアップ

<期待の小麦新品種をひろめる>

- ベーカリーキャンプ2012 1,500千円
- ・十勝産小麦を用いたパン作り講習会の開催
 - ・十勝産小麦を中心とした「食観光」の推進

<十勝のブランド力を活かす>

- 黒毛和牛生産振興事業 5,102千円
- ・「十勝和牛素牛」の生産技術の普及

- 地域ブランド向上研究支援事業 1,000千円
- ・「十勝」の地域ブランド力を高めるための制度研究

<企業へ成長資金を提供する>

- ニューフロンティア資金の提供 208,800千円
- ・地域に優位性のある成長分野向けの資金メニューの提供



十勝の魅力を売り込む

<東アジア市場を目指すプレイヤーを支える>

- 東アジア市場等展開支援事業 3,000千円
- ・十勝海外ビジネス研究会の開催
 - ・市場可能性調査の実施
 - ・プレイヤー支援など

<と勝ちをまるごと売り込む>

- と勝ちまるごとPR事業 1,908千円
- ・首都圏等への十勝農業のPR

- イメージアップキャンペーン 3,000千円
- ・首都圏における広告やメディアを活用した十勝・帯広のイメージアップ

- 食と環境・国際フォーラム 5,000千円
- ・と勝ちを世界にアピールする食と環境・国際フォーラムの開催を支援

<と勝ち観光を世界に売り込む>

- 東アジア観光プロモーション事業 3,000千円
- ・中国、香港、台湾、シンガポールをターゲットとしたプロモーション活動を行い、ツアー造成に向けた訪問・招聘を実施

- フードバレーと勝ちフェスティバル 5,000千円
- ・「フードバレーと勝ち」を冠した十勝の食をPRするイベントを開催

<食によるまちづくりの交流>

- フードバレー交流 915千円
- ・富士宮市を核とした交流の拡大

未来を担う人を育てる

<フードバレーと勝ちを継ぐ人を育てる>

- フードバレーと勝ち人材連携強化事業 3,800千円
- ・生産者、加工業者が連携した調査の支援
 - ・次代を担う農商工連携、市内と管内の担い手の連携の促進

<フードバレーと勝ちを実践する人を支える>

- フードバレーと勝ち人材育成事業 6,500千円
- ・様々な研修機会の提供による経営者や技術者等の地域産業の活性化を担う人材の育成

<フードバレーと勝ちで企業と生産者を結ぶ>

- ・本州食品関連企業等との連携促進

<プラットフォームによるコーディネート機能の発揮>

- 国際戦略総合特区の活用
- ・国際戦略総合特区推進機構負担金 1,334千円

- 定住自立圏構想の活用

- フードバレーと勝ちの推進 7,862千円
- ・オール十勝での情報発信 (ポータルサイト構築・講演会他)

- ・管内町村と連携した取り組み 音更町・広尾町・池田町 ほか



フードバレーと勝ち

平成23年度の取り組みの検証と平成24年度の取り組み

【農業を成長産業にする】

平成23年度の取り組み	取り組みの検証、今後の考え方	平成24年度の取り組みへ
<p>＜とちかの資源・人・企業を発掘する＞ ①フードバレーとかち食・農活性化事業 地域資源や生産者の取り組みを紹介し、十勝農業のイメージアップを図るとともに、需要の高い作物の導入促進に向け、需要調査を実施。</p> <p>十勝の農畜産物やその加工品、技術、生産者などの地域資源をデータベース化 十勝農業のイメージアップ、首都圏等へのPRのため、十勝の農業者の取り組みを紹介した「とかち農業ストーリーブック」を作成 需要の高い作物の導入促進に向け、飲食店等を対象にしたニーズ調査</p>	<p>【成果】地域資源のデータベース、とかち農業ストーリーブック</p> <p>地域資源のデータベース、とかち農業ストーリーブックをとかちをまるごと売り込む取り組みにおいて活用し、十勝農業・農畜産物のPR、販路拡大等を図るとともに、需要調査結果を関係機関等と検討し、実需者ニーズの高い農作物の導入による経営の多角化に向けた取り組みをすすめる。</p> <p>とかちをまるごと売り込むのとちかまるごとPR事業等での活用へ</p>	<p>地域資源データベースの活用 データベース化された地域資源情報をHP上に掲載し、広く十勝農業に関して情報を発信し、販路の拡大や企業との新たなマッチングにつなげていく。</p> <p>とかち農業ストーリーブックの活用 「とかちまるごとPR事業」において、ビジネスマッチングなどの機会を捉え十勝農業・農畜産物のPR活動に使用し、販路拡大等につなげていく。</p> <p>新規作物等の需要調査の活用 実需者ニーズの高い農作物の導入による経営の多角化に向け関係機関等と検討をすすめる。</p>
<p>＜新品種・新技術を活かす＞ ②技術活用促進事業 試験研究機関等との連携により、管内の生産者・加工業者に最新の情報や消費者・実需者ニーズ動向をいち早く知らせ、市場・業界等において優位な地位を築く。</p> <p>全国えだまめサミット in 十勝 2011の開催 (9/8・9) 日本フードシステム学会 2011年度秋季研究会の開催 (10/22) 北海道地域マッチングフォーラムの開催 (11/22) ポテトフォーラムの開催 (12/6) 十勝農学談話会の開催 (12/7)</p>	<p>【成果】営農技術向上、経営基盤強化に向けた気運の醸成、十勝における食品加工業の課題の明確化、小麦新品種種子の十勝への集中 (H23 播種：全道の1/4、H24 播種：全道の1/2の見込み)</p> <p>小麦種子の十勝への集中など一定程度成果が見られることから、取り組みを継続する。但し、試験研究機関等の技術普及に向けた事業費を有効活用し、帯広市の事業費を圧縮して継続する。</p>	<p>＜新品種・新技術を活かす＞ 技術活用促進事業 ○新品種、新技術等に関するフォーラム等の開催 ○試験研究段階からの生産者、加工業者等への情報提供</p>  <p>フォーラムの様子</p>
<p>＜とかち農家6千戸で食の安全・安心に取り組む＞ ③十勝型生産技術基盤の形成 オール十勝での安全・安心な農産物の生産・出荷に関する統一的な生産工程を導入する取り組みを促進し、「食の安全・安心」に取り組む地域としてアピールするとともに、化学肥料や化学合成農薬の使用削減や、新規農産物の栽培技術の確立に向けた取り組みをすすめる、生産技術基盤の形成をはかる。</p> <p>十勝型農業生産工程管理手法 (GAP) 導入促進 新規作物栽培実証試験 減肥・減農薬マニュアルの作成</p>	<p>【成果】管内全農協での十勝型GAP導入 (小麦)、十勝型GAPの集計結果の迅速化、やまのいも (十勝3号) の種苗生産・栽培特性調査、加工用トマト・薬用植物 (甘草等) の栽培特性調査、減肥・減農薬栽培に関するマニュアル化</p> <p>小麦栽培における十勝型GAP導入を踏まえ、他の作物への導入を促進するとともに、新規作物の導入については、調査の継続や調査結果を踏まえ、ステップアップをはかる。また、減肥・減農薬栽培に関するマニュアルを活用した生産現場への普及を図る。</p> <p>【新規作物の導入調査 ⇒ 本州食品関連企業のフォローアップ関連】</p>	<p>＜とかち農家6千戸で食の安全・安心に取り組む＞ 十勝型生産技術基盤の形成 ○小麦以外への十勝型GAPの導入促進 ○やまのいもの市場評価用種子の増殖、調査結果を踏まえた栽培条件の試験 ○加工用トマト・薬草の肥培管理・栽培特性試験の継続 ○加工用たまねぎの栽培適正試験の開始 ○生産者段階における減肥・減農薬栽培の導入促進 ○食の安全・安心の取組み発信 (パンフ、直売所マップ作成・PR)</p>  <p>加工用たまねぎ</p>
<p>＜農業者融資を拡充する＞ ④ニューフロンティア資金創設 (制度創設) 農協組合員以外の農業者への融資に向け制度拡大をはかり、多様な農業者からの資金需要に対応し、本市農業の活性化を促進する。</p> <p>相談件数：2件 融資実績：0件 (H24.1末現在)</p>	<p>農協組合員以外にも融資対象を拡大したものであり、引き続き融資対象者への制度周知を行うとともに、融資相談等の対応を行う。</p>	<p>農業者への資金提供 ○ニューフロンティア資金の周知及び提供</p>
<p>＜畑を科学し、土を元気にする＞ ⑤土壌分析・飼料分析の促進 土壌分析に基づく効率的な施肥管理による減化学肥料栽培の促進をはかるとともに、土壌に適合した肥料の普及と肥料コスト低減効果の調査により土壌環境の保全をすすめる。また、飼料分析等から適正な施肥管理を促進するとともに、高収量で栄養価の高い自給飼料の生産技術の普及により生産力の向上をはかる。</p> <p>土壌分析、堆肥分析に基づく適正な施肥の促進 土壌分析と生産履歴データの解析による、適正な肥料の選定 草地・飼料畑の栽培調査、飼料分析等による適切な施肥方法の調査</p>	<p>【成果】適正な施肥の促進や土壌に対応した肥料の選定による肥料コストの低減、農家経営の安定化、飼料生産技術向上に向けた解析</p> <p>土壌分析の支援については、生産者が実施する適正な施肥管理を行うための土壌分析費用を補助し、より安全・安心な農産物の生産を促進する。 飼料分析については、調査を継続し精度を向上させるとともに、調査結果を踏まえた栽培管理指導など、自給飼料生産技術の向上を促進する。</p> <p>良質堆肥の製造や土づくりと堆肥活用の促進などにより、有機資源循環システムの構築に向けた取り組みをすすめる、より安全・安心な農産物の生産を促進するとともに、積極的に化学肥料・農薬の5割低減等に取り組む農家の拡大をはかる。また、地域農業の強化を図るため、飼料の生産から収穫、更に堆肥生産やTMRセンター運営まで幅広く地域農業の役割を担うコントラクターの育成支援を行う。</p> <p>＜安全でおいしい農畜産物の生産を推進＞を追加</p>	<p>＜畑を科学し、土を元気にする＞ 土壌分析・飼料分析の促進 ○土壌分析に基づく適正な施肥管理の促進 生産者が実施する適正な施肥管理を行うための土壌分析費用の補助 ○自給粗飼料の調査分析による飼料生産力向上 調査を継続し精度を向上させるとともに、調査結果を踏まえ栽培管理指導に活用</p> <p>＜安全でおいしい農畜産物の生産を推進＞【新規】 有機資源循環システムの構築 ○良質堆肥製造・施用効果試験の実施 ○土づくりと堆肥活用研修の実施 環境保全型農業の拡充 ○化学肥料・農薬の5割低減や有機農業に取り組む農家への支援 飼料自給率向上対策事業 ○コントラクターの育成支援</p>
<p>＜とかちIT農業を推進する＞ ⑥先進的農業促進事業 試験研究機関等と連携した最先端技術を活用した農業や研究成果の普及促進により、大規模農業を展開している十勝において、更なる農作業の効率化を図り、安全・安心で高品質な農畜産物の生産、持続可能な農業を展開するための推進力とする。</p> <p>精密農業アジア会議 in おびひろの開催 (7/5～7/7) IT農業推進セミナー・農作業ロボット実演会の開催 (11/8) 民間企業と連携した農業リモートセンシングの地上実証試験 (5月～11月)</p>	<p>【成果】最先端農業に関する研究事例等に触れる機会の提供、農業分野へのIT導入に向けた機運の醸成</p> <p>試験研究機関等と連携した最先端技術を活用した農業に関する情報の収集と提供、民間事業者等が行う研究・開発に必要な試験圃場の提供・紹介など、帯広・十勝における農業分野へのIT導入の普及促進をはかる。</p>	<p>＜新品種・新技術を活かす＞ IT農業の推進 ○農業分野へのIT導入の普及促進 ○IT農業技術の研究・開発に必要な試験圃場提供等の協力</p>  <p>無人トラクタの走行試験 (H23.11)</p>

平成23年度の取り組みの検証と平成24年度の取り組み

【食の価値を創出する】

平成23年度の取り組み	取り組みの検証、今後の考え方	平成24年度の取り組みへ
<p><農商工連携で付加価値をつくる> ⑦6次産業化促進事業 地域の優位性を活かした加工品づくりの支援や生産、加工、販売に係るプレイヤーの連携機会の提供等をすすめ、管内企業により生産、加工、販売が連携した形態での6次産業化を促進する。</p> <p>十勝産小麦を使った製品開発等の支援 販路拡大支援・PR支援・連携支援ほか 北海道地域マッチングフォーラムの開催(11/22)【北農研と連携】 十勝管内地元マッチングの開催(2/23)【同友会と連携】 北海道バックアップ拠点構想に係る取り組み 管内自治体との意見交換・勉強会(10/26) 管内企業・関係機関との備蓄食料の試食会・情報交換(12/27)</p> 	<p>【成果】十勝産小麦を使った製品 十勝生パスタ(販路拡大支援)、とちかち餃子(販路拡大支援)、 とちかち牛じゃん麺(PR支援)、十勝じゃが麺他(連携・PR支援) 管内企業のマッチングニーズのデータ</p> <p>企業訪問等から多くの企業は商品開発や販路拡大を志向していることから、企業間連携の促進は有効な手段であり、事業を継続する。一方でマッチングはきっかけであり、フォローアップにより取引の継続化をはかる。</p> <p>北海道バックアップ拠点構想については、備蓄食料の製造に向けた管内企業の連携を促進するとともに、関係機関への働きかけを強化する。</p> <p><農商工連携で付加価値をつくる>から<十勝の企業をつなぐ>へ移行</p>	<p><十勝の企業をつなぐ> 企業間マッチング・フォローアップ事業 ○十勝管内の企業の連携を促進する、管内企業のマッチング ○マッチング後のフォローアップ</p> <p>○北海道バックアップ拠点構想関連 ・備蓄食料の製造に向けた企業間連携の促進 ・関係機関が実施する調査・モデル事業等との連携</p>   <p>北海道地域マッチングフォーラム</p>
<p><産地立地型企業を集積する> ⑧食産業立地促進事業 企業立地、特に食関連産業の集積を促進することにより、地域雇用の確保を図る。</p> <p>企業訪問活動及び食品業界に精通する者からの企業立地に関する情報収集など、地域内外の食関連企業とのFace to Faceの関係を構築しつつ活動を強化</p> <p>プラットフォーム機能の一環として本州企業へアプローチ 本州食品関連企業等食関連企業へのアプローチ</p>	<p>【成果】西20条北工業団地：4件4,923.99㎡を販売(H24.1末現在)</p> <p>西20条北工業団地の保留地の販売では過去3番目に多く、23年度と24年度で限定して実施している立地奨励金上乗せ措置による効果が表れている。</p> <p>大手食関連企業の誘致にはいたっていないが、今後も情報収集力を強化し、企業へのアプローチを強化するなど企業誘致活動を継続する。</p> <p>関係が構築された本州食品関連企業のフォローアップについては、管内生産者等との交流促進や作物の栽培特性調査など具体的な連携をすすめる。</p>	<p><フードバレーとちかちで企業と生産者を結ぶ> 本州食品関連企業等と生産者の連携促進 ○本州食品関連企業と管内生産者の交流促進 ○本州食品関連企業と管内試験研究機関との連携促進 ○大学院農業系ゼミと管内生産者の交流促進</p> <p><とちかち農家6千戸で食の安全・安心に取り組む>【再掲】 十勝型生産技術基盤の形成 ○加工用トマト・葉草の肥培管理・栽培特性調査の継続 ○加工用たまねぎの栽培適正試験の開始</p>
<p><企業へ成長資金を提供する> ⑨ニューフロンティア資金創設 中小企業者を対象とした地域に優位性のある農畜産物を活用した事業支援</p> <p>融資実績 2件(乾燥野菜加工販売等)(H24.1末現在)</p>	<p>【成果】地元産の生野菜を乾燥野菜に加工・販売、地元産小麦を使った菓子製造事業化に至らなかったものの様々な案件で協議を行なってきており、道東道開通、総合特区の指定など、事業化推進に対する機運が高まりつつあることから、これまでの取り組みはもとより、商工会議所等の支援機関が開催する説明会等を活用し、制度の周知をはかり事業化案件の発掘に向けた取組みを継続する。</p>	<p><企業へ成長資金を提供する> ニューフロンティア資金の提供 ○地域に優位性のある成長分野向けの資金メニューの提供 預託金(H23:212,000千円 ⇒ H24:208,800千円)</p>
<p><十勝産小麦で富士宮やきそばとコラボする> ⑩富士宮市とのフードバレー交流 「フードバレー」に係る交流や、先進的な富士宮市の取り組みを学び、「フードバレーとちかち」推進に活かすとともに、ネームバリューのある富士宮市を活用して「フードバレーとちかち」を効果的にPRしていく。</p> <p>富士宮やきそばのニューヨークのホコ天出店の際に十勝産小麦を使用(8/21) 富士宮やきそば学会会員がオビヒロホコテンに出店(8/28) 富士宮市の駅前十六市にフードバレーとちかちのブース出店(10/16) 福井県小浜市の道の駅で十勝の商品を販売(10/27~)</p>	<p>【成果】フードバレー・食のまちづくりによる交流の広がり(福井県小浜市) 富士宮市・小浜市での十勝の産物の販売</p> <p>富士宮市が「フードバレーとちかち」をPRすることにより、福井県小浜市との交流に発展してきたこと、富士宮市や小浜市で帯広・十勝の特産品の販売が行われるなど、一定程度成果が見られることから、取り組みを継続する。</p> <p><十勝産小麦で富士宮やきそばとコラボする>から<食によるまちづくりの交流>へ移行</p>	<p><食によるまちづくりの交流> フードバレー交流 ○富士宮市を介した交流の拡大 ○富士宮市を活用した「フードバレーとちかち」のPR</p>   <p>道の駅「若狭おばま」 オビヒロホコテン</p>
<p><期待の小麦新品種をひろめる> ⑪ベーカリーキャンプ2011 著名なシェフによる十勝産小麦を使ったパンづくり講習を通して、十勝産小麦の普及拡大をはかるとともに、十勝産小麦を使った新たな製品開発を促進する。</p> <p>ベーカリーキャンプ2011の開催(7/19~7/23) 参加者延べ363人 ベーカリーキャンプを模倣した民間ツアー 4ツアー</p>	<p>【成果】民間主体でベーカリーキャンプを模倣したツアーが開催、ベーカリーキャンプからのスピノフ商品の製造販売開始、十勝パンを創る会の設立などベーカリーキャンプを中心とした民間主導の取り組みの展開</p> <p>上記のように一定程度成果が見られることから、こうした取り組みの定着に向け引き続きベーカリーキャンプ2012に取り組む</p>	<p><期待の小麦新品種をひろめる> ベーカリーキャンプ2012 ○十勝産小麦を用いたパン作り講習会の開催 ○十勝産小麦を中心とした「食観光」の促進</p>  <p>ベーカリーキャンプ</p>
<p>黒毛和牛生産振興事業 八千代牧場に導入した良血黒毛和牛から採取した受精卵を預託牛に移植後、酪農家に返却し酪農における黒毛和牛の円滑な導入をはかる。</p> <p>和牛育成技術指導を目的に十勝農協連や市内JA等と連携し、黒毛和牛導入酪農家への定期巡回を実施し、マニュアルに沿ったブランド和牛生産を促進</p>	<p>【成果】市内酪農家の黒毛和牛導入が促進され、黒毛和牛を育成する農家が増加。(H16:17戸→H22:23戸)育成マニュアルに沿った定期巡回指導により酪農家の素牛販売平均価格は十勝家畜市場平均を上回る状況。</p> <p>平成23年度より「十勝和牛素牛」のマニュアル認定牛制度が創設されたほか、「十勝和牛」が地域団体商標登録されるなど地域ブランドの向上が期待されることから、市内JA等と連携し、酪農における黒毛和牛の導入を促進する。</p>	<p><十勝のブランド力を活かす>【新規】 黒毛和牛生産振興事業 ○「十勝和牛素牛」の生産技術の普及</p>
<p>民間主催による、原産地呼称証明制度(AOC)にならった地理的表示保護制度等の研修会等の開催(10/4~10/8)</p> <p>民間主催による、農水省担当者を招いた勉強会の開催(2/20)</p> <p>十勝産原材料を使用した「十勝チーズ」「十勝パン」の取り組みが始動</p>	<p>十勝らしさを背景に持った製品開発の具体的な取組み、更にはそれらの取組みを差別化するため、地理的表示の活用に向けた機運の高まりが見られることから、国内外における「十勝」の地域ブランド力を高めるための制度研究を支援する。</p>	<p><十勝のブランド力を活かす>【新規】 地域ブランド向上研究支援事業 ○「十勝」の地域ブランド力を高めるための制度研究 ・講演会、研修会、原産地呼称制度の実現可能性の研究への支援</p>

平成23年度の取り組みの検証と平成24年度の取り組み

【十勝の魅力を売り込む】

平成23年度の取り組み	取り組みの検証、今後の考え方	平成24年度の取り組みへ
<p>＜とちかの「食」「農」「環境技術」を売り込む＞</p> <p>⑫東アジア展開事業 ビジネスツアーや海外ビジネスに関する研究会等により、国内・域内市場から域外への販路開拓を促進する。またターゲットとして東アジア、特に中国最大の経済都市である上海を中心に取り組みをすすめる。</p> <p>帯広ビジネスツアーの実施（7/20～7/23）（上海工商業連合会 10名招聘） 十勝海外ビジネス研究会の開催（4回、4回目は年度内開催予定） 上海での商談、試食実演などの市場調査等の実施（2/22～2/26）（地元4社）</p>	<p>【成果】上海工商業連合会等との関係強化、海外ビジネスを志向する地域企業をネットワーク化</p> <p>平成24年度に向けては、地元企業間の情報共有、情報提供の場づくりを強化するとともに、ターゲットとなる市場については、これまでの中国・上海のみの対応から、台湾・シンガポール・韓国等、地元企業が対象地域を選択できる支援をすすめる。</p> <p>上海への商談ツアーを見直し、取り組み意欲のある企業への支援に切り替える</p>	<p>＜東アジア市場を目指すプレイヤーを支える＞</p> <p>東アジア市場展開支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○十勝海外ビジネス研究会の開催 ○市場可能性調査 海外事業に挑戦するプレイヤーの発掘や海外のターゲット市場を調査するためのマーケティング支援 ○プレイヤー支援など 海外販路拡大に向けた事業等を実施している機関等と連携した支援
<p>＜安全・安心な農畜産物を売り込む＞</p> <p>⑬とちかまるごとPR事業 十勝・帯広の農畜産物や安全安心な生産の取り組みについて、大消費地や食関連企業などを中心にPRを実施し、販路拡大や企業とのマッチング機会の創出をはかる。</p> <p>「さっぽろオータムフェスト2011」での十勝の農産物のPR（9/17・18） 「インフォメーションバザール in Tokyo 2011」での十勝のPR及び出展者支援（10/19・20） 「静岡県東部・十勝帯広ビジネスマッチング「食&農」こだわりの逸品展示会2011」での十勝のPR及び出展者支援（11/10）</p> <p>プラットフォーム機能の一環として本州企業へのアプローチ 本州食品関連企業等へのアプローチ</p>	<p>【成果】出展者が商談成立に向け交渉中</p> <p>平成24年度に向けては、バイヤーが多く来場する機会（インフォメーションバザールやFOODEX JAPAN等）を捉え、「とちか農業ストーリーブック」を活用し、農畜産物に加えその生産にまつわるストーリーも紹介しながら、より効果的なPR活動をすすめる、販路拡大の促進をはかる。</p> <p>本州食品関連企業のフォローアップについては、管内農業者との交流により、生産現場や生産者への理解を促進し、十勝の安全・安心で高品質な農畜産物への理解を深め、販路拡大の促進をはかるとともに、作物の栽培特性調査など具体的な連携をすすめる。</p>  <p>インフォメーションバザール</p>	<p>＜とちかをまるごと売り込む＞</p> <p>とちかまるごとPR事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○首都圏等への十勝農業のPR【「とちか農業ストーリーブック」の活用】 <p>＜フードバレーとちかで企業と生産者を結ぶ＞【再掲】</p> <p>本州食品関連企業等と生産者の連携促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本州食品関連企業と管内生産者の交流促進 ○本州食品関連企業と管内試験研究機関との連携促進 ○大学院農業系ゼミと管内生産者の交流促進 <p>＜とちか農家6千戸で食の安全・安心に取り組む＞【再掲】</p> <p>十勝型生産技術基盤の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○加工用トマト・薬草の肥培管理・栽培特性調査の継続 ○加工用たまねぎの栽培適正試験の開始
<p>＜最先端農業機械を世界に売り込む＞</p> <p>⑭国際農業機械展 in 帯広 東日本大震災により、出展企業が一部被災したこと等から、開催を中止。</p>		
<p>＜とちか観光を世界に売り込む＞</p> <p>⑮中国観光プロモーション事業 北京・上海を中心とした現地でのトップセールスを含めたプロモーション等によるツアー造成の促進、現地メディア関係者の招聘による十勝のイメージアップなど、平成22年度から3年計画により中国からの海外観光客誘致をはかる。</p> <p>香港テレビ局招聘（6名、7/8～7/10） 台湾プロモーション（副市長以下17名、7/27～7/31） 北京・天津プロモーション（2名、9/1～9/6）旅行雑誌社招聘（2名、9/6～9/11） 北京・上海プロモーション（副市長以下5名、11/6～11/12） シンガポール・上海プロモーション（市長以下4名、2/5～2/11）</p>	<p>【成果】香港でのテレビ放映やインターネット配信、日中韓観光協力機構理事長等の視察来帯、来年春号に十勝の特集記事を掲載（予定）、国際チャーター便就航（全54便、一部予定）</p> <p>中国に関しては市場規模を考え、今後もツアー造成に結びつくよう観光プロモーションを継続していくが、短期的には、訪日観光客の回復が早い他のアジア諸国・オセアニアなど新たな地域へターゲットを拡大する必要があることから、中国以外にも効果的、戦略的な事業展開をはかる。</p>	<p>＜とちか観光を世界に売り込む＞</p> <p>東アジア観光プロモーション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中国、香港、台湾、シンガポールをターゲットとしたプロモーション活動を行い、ツアー造成に向けた訪問・招聘を実施 
<p>＜とちか観光を世界に売り込む＞</p> <p>⑯フードバレーとちか食彩祭2011 地域を取り巻くアクセス環境が飛躍的に向上する機会を捉え、道央圏における食イベントへの出展や、実りの秋に開催される地域の食イベントとの連携により、オール十勝で十勝の魅力を発信し、管内への誘客をはかるとともに、十勝の食をテーマにフードバレーとちかを内外にPRする。</p> <p>さっぽろオータムフェスト2011 出店（9/16～9/20） フードバレーとちか食彩祭の開催 十勝を食べてよう秋を満喫フェア2011（10/22・23） オール十勝まんぷくフェスタ2011（11/19・20）</p>	<p>【成果】管内19市町村による観光推進体制の構築、道東道開通後の来勝客の増加、ばんえい競馬との相乗効果による道内各地からの来場</p> <p>安全で美味しい農畜産物、チーズなどに代表される素材を活かした加工品など、「フードバレーとちか」の地元で開催する食と農のPRイベントとして、また、観光客増につながる発信力のあるイベントとなるよう、新たに「フードバレーとちかフェスティバル」として一層の内容充実をはかる。</p>	<p>＜とちか観光を世界に売り込む＞</p> <p>フードバレーとちかフェスティバル</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「フードバレーとちか」を冠した十勝の食をPRするイベントを開催  <p>オール十勝まんぷくフェスタ2011</p>
<p>「食と環境・国際フォーラム」の正式準備会合「北海道・とちか会議」を開催（10/20～22）</p>	<p>北海道の食と環境が国際競争力を持ち、アジアのマーケットの中でポジションを占め得るような具体的な戦略・戦術について議論・討論する「食と環境・国際フォーラム」の開催を支援し、道外・海外（アジア）に向けて北海道・とちかの価値を発信する。</p>	<p>＜とちかをまるごと売り込む＞【新規】【帯広市開拓130周年記念事業】</p> <p>食と環境・国際フォーラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○食と環境・国際フォーラムの開催を支援し、とちかを世界にアピールする
		<p>＜とちかをまるごと売り込む＞【新規】</p> <p>イメージアップキャンペーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ○首都圏における広告やメディアを活用した十勝・帯広のイメージアップ

平成23年度の取り組みの検証と平成24年度の取り組み

【プラットフォームの構築】

平成23年度の取り組み	取り組みの検証、今後の考え方	平成24年度の取り組みへ
<p>⑰<プラットフォームの構築> フードバレーとかちのコーディネート機能を担うプラットフォームとして、関係機関や企業等のプレイヤーと連携し「フードバレーとかち」をすすめ、産業の振興をはかる。</p> <p>フードバレーとかち推進協議会設立 (7/7) フードバレーとかちの新しいロゴマークを決定 (9/28) フードバレーとかち推進協議会のポータルサイト公開 (12/2) フードバレーとかち推進プランの成案化、戦略プランの作成 (H24.1~2) フードバレーとかち講演会の開催 カゴメ株式会社 常務執行役員 佐野 泰三 氏 (8/4) フードバレー環境・バイオマス講演会 (9/3) 味の素株式会社 代表取締役会長 山口 範雄 氏 (9/13) オランダ王国大使館 農業・自然・食品安全担当 参事官 カーラ・ボーンストラ 氏 (1/24)</p> <p>プラットフォーム機能の一環として本州企業へのアプローチ 本州食品関連企業等へのアプローチ</p> <p>とかちネットの設立 (事務局：帯広畜産大学) 産学官金の有機的なネットワークの形成と広範な交流を促進し、社会に貢献する科学技術の振興を図るとともに、十勝地域の産業・経済の活性化に寄与することを目的に、帯広産業クラスター研究会のメンバーが中心となり設立 ・総会、講演会の開催 (8/24) ・設立部会 (ハーブ研究会、6次産業化研究会、小麦研究会)</p>	<p>【成果】 フードバレーとかちの実現に向けた機運の醸成、帯広市やフードバレーとかち推進協議会が関わりをもった製品の開発・販売 (北の焼きそば 十勝・豚丼風焼きそば、ぶたどん棒や、焼味豚丼 十勝仕立て、十勝じゃが麺、とかち牛じゃん麺など) ポータルサイトとしての食・農林漁業関連情報の集約と発信 (イベントカレンダーの活用、メールマガジンの配信) 本州食品関連企業との関係構築</p>  <p>企業訪問や情報収集などをすすめコーディネート機能を発揮するとともに、情報発信力の強化などにより、引き続きフードバレーとかちに関する機運の醸成等をはかっていく。 また、管内町村との意見交換等を踏まえ、町村と個別に連携し取り組みをすすめるとともに、十勝管内の企業等との連携については、農業や食に関する管内企業等が多く参加している「とかちネット」等と連携し取り組みをすすめる。 更に、関係が構築された本州食品関連企業等のフォローアップについては、管内生産者等との交流促進や作物の栽培特性調査など具体的な連携をすすめる。</p> <p><プラットフォームの構築>から<プラットフォームによるコーディネート機能の発揮>へ移行</p>	<p><プラットフォームによるコーディネート機能の発揮></p> <ul style="list-style-type: none"> ○コーディネート機能の発揮 <ul style="list-style-type: none"> ・エアラインと連携した国際線機内食での十勝産食材の提供、国内線機内飲み物への十勝産食材の導入促進 ・商社と連携した空港ショッピングセンターでの十勝の産物の販売 ・業界団体と連携した食関連企業の情報収集、農業経営コンサル ・民間給食事業における十勝産農産物を活用した給食の提供等 ・計測機器メーカーと連携した温湿度制御技術の農業分野への展開 ・本州ハーブ農園・とかちネットと連携したハーブ飼料化の調査・検討 ・管内JAと連携したながいも、枝豆の輸出に向けたルート開拓 ・管内食品メーカーと連携した同業界内の受委託生産に係る連携、金属機械メーカーとの連携促進 ○管内町村と連携した取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・加工用たまねぎの栽培適正試験、本州食品関連企業との交流促進、十勝産小麦の普及・PR ・ワイン用ぶどう苗畑の作付拡大 ・地域資源 (ししゃも) を活かしたツアーの造成 ・そばセミナーの共同開催【技術活用促進事業の連携】 ○オール十勝での情報発信 (タウン誌、メールマガジンの配信ほか) ○フードバレー講演会の開催【(仮)とかち未来塾事業】 <p><フードバレーとかちで企業と生産者を結ぶ>【再掲】 本州食品関連企業等と生産者の連携促進 ○本州食品関連企業と管内生産者の交流促進 ○本州食品関連企業と管内試験研究機関との連携促進 ○大学院農業系ゼミと管内生産者の交流促進</p> <p><とかち農家6千戸で食の安全・安心に取り組む>【再掲】 十勝型生産技術基盤の形成 ○加工用トマト・薬草の肥培管理・栽培特性調査の継続 ○加工用たまねぎの栽培適正試験の開始</p>

平成24年度の新たな取り組み

【未来を担う人を育てる】【新規】

<フードバレーとかちを継ぐ人を育てる>	<フードバレーとかちを実践する人を支える>	<フードバレーとかちで企業と生産者を結ぶ>
<p>フードバレーとかち人材連携強化事業 生産者と商工業者が調査活動等の取り組みを一緒にすすめることにより、将来の農商工連携の素地を創出するとともに、十勝管内の人材連携を促進する観点から、管内自治体を通じ町村のプレイヤーにも参加を促し、帯広市のみならず十勝全体の人材連携を促進し、フードバレーとかちを持続可能なものとする。 【(仮)とかち未来塾事業】</p> <p>○生産者、商工業者が連携した調査の支援【帯広市開拓130年記念事業】 総勢11名 (帯広市関係分のみ) 商工業者、農業者8名 市職員3名 (産業連携室、商工観光部、農政部) ※平成24年度以降は、人数を圧縮して事業を継続予定</p> <p>※フードバレーとかち講演会を活用した布石 オランダ王国大使館 農業・自然・食品安全担当 参事官 カーラ・ボーンストラ 氏 (1/24)</p>	<p>フードバレーとかち人材育成事業 農業や企業等において、意欲を持ち、次世代を担う経営・事業を実施する等、地域産業を担う『リーダーシップ』を発揮する人材を育成する。 【(仮)とかち未来塾事業】</p> <p>実施主体 帯広市と帯広畜産大学 (事業主管：帯広畜産大学)</p> <p>事業概要 平成19年から文部科学省の補助を受け実施してきた「十勝アグリバイオ産業創出のための人材育成事業」で培ったノウハウを活かし、実用性が高く、企業の事業意欲や経営能力を高めるための研修を実施。</p> <p>想定事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業・新事業展開講習 ・自由選択講義プログラム ・食品有害微生物講習 (初・中・上級) ・コーディネーター研修コース 	<p>本州食品関連企業等と生産者の連携促進【再掲】 本州食品関連企業等と管内生産者との交流により、生産現場や生産者への理解を促進し、十勝の安全・安心で高品質な農畜産物への理解を深め、販路拡大の促進をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本州食品関連企業と管内生産者の交流促進 ○本州食品関連企業と管内試験研究機関との連携促進 ○大学院農業系ゼミと管内生産者の交流促進